

令和元年度第2回 独立行政法人農業者年金基金資金運用委員会 議事概要

1. 開催日時

令和元年9月30日（月）13:30～14:15

2. 開催場所

独立行政法人農業者年金基金 特別会議室

3. 出席委員

・明田雅昭 委員長 ・菅原晴樹 委員 ・徳島勝幸 委員 ・枇杷高志 委員

4. 議事

・政策アセットミックスの期待収益率の改善について

5. 概要

- ・議事について、事務局から説明を行った。
- ・検討の前提となる経済見通しのうち、為替シナリオの考え方について確認が行われたが、他に特段の意見等はなかった。
- ・現在の金融環境等を踏まえ、外国債券のあり方を含む抜本的な検討が必要ではあるものの、当面の対応として、政策アセットミックスを微調整し、国内債券65%、国内株式15%、外国債券(ヘッジあり)5%、外国株式15%とすることを了とし、今後、主務省に対する説明等所要の手続きを進めることが了承された。
- ・抜本的な政策アセットミックスの検討については、どのようなスケジュールで行うか、事務局で検討することとされた。

<主な意見等>

- ・昨今の各資産間の相関の高まりにより資産の分散効果が薄まっていることも踏まえれば、単純に株を増やすのみではなく、外国債券投資の位置づけ(ヘッジの有無を含む)も含めた抜本的な検討を行うべきではないか。
- ・平成29年度に実施した現行の政策アセットミックスの検討においては、ALM分析も行い加入者の意向にも配慮して期待収益率よりもリスク水準に重きを置いた決定をしたが、当時とは投資環境が大きく変わり期待収益率が低下しているため、より抜本的な検討を行うことを考えてもよいのではないか。
- ・現行の政策アセットミックスを検討する際示された3つのケースの枠内での微調整と言うことだと思うが、当時意見は分かれており、最終的に3つのうち最もリスクの低い案を選択したが、一番リスクリターンが高い案(今回の案が相当)でよいとする声もあった。

以上